

# 学力向上先進地域視察研修 in 岐阜県岐阜市

## グループ別テーマ「教員の意識・指導力の向上」

### 取組の実際

#### ○ 授業レベルの指導力の保障と向上

##### ・単位時間のスタンダードの確立

学習活動、児童生徒支援や配慮事項を記載し、「つかむ」「さぐる」「ふかめる」で構成された『授業の流れの基本』を4月に全職員で共通確認している。主な学習活動、指導支援や配慮事項が示されており、誰もが基本的な流れで授業が行えるようにしている。一定の授業レベルを保つ上で、有効な方法であり、ベテラン教師と若手教師の授業技術の交流にもつながっている。

#### ○ 組織の機能化

##### ・PDCAサイクルの日常化

学力向上、学級経営等におけるPDCAサイクルの期間を短く設定することで、取組に対する修正点等について判断しやすい状況をつくっている。また、それが機能しているという背景には、教員同士の関わりや研修が充実し学級経営全般についての情報交換や指導・支援が行われていることにある。

##### ・凡事徹底

日々の取組等に対し、教師がどれだけこだわって児童生徒に指導していくかが大切である。職員会議や打合わせ、必要に応じて主任会を開き、共通理解を図っている。

##### ・小・中学校間の人事交流

小・中学校間での人事異動を市(県)の施策として行っていることで、お互いの様子や環境の違い、課題等の理解が深まり、校種に応じた授業改善が実現している。

## 共通テーマ「授業づくりについて」

### 取組の実際

#### ○ コンパスカリキュラムで指導計画作成のサポートと高い水準の授業づくり

単位時間のスタンダードの確立を図るため、「岐阜市コンパスカリキュラム」という各教科における年間指導計画を全小中学校に配布し、日々の授業改善を行っている。このコンパスカリキュラムには、問題解決型の授業モデル、単元ごとの評価表、ICTの活用、主体的・対話的で深い学びの視点からの指導・援助等が示されており、どの教員が指導に当たっても、指導の質を一定に担保することができている。

#### ○ 「主体的・対話的で深い学び」のための工夫

##### ・課題解決学習の徹底

いずれの教科、学年、校種においても、その一単位時間が課題解決学習になるよう、導入段階で明確にその課題が示されている。

##### ・児童生徒の声が届く授業づくり

対話的な学びの実現に向け、一単位時間に必ず子供が説明する場面を位置付けている。このことが、主体的な学びや深い学びにもつながっている。



##### ○ 学び合う集団づくり

##### ・「合い言葉」「チームごとの目標」

授業で目指す児童生徒像を明確にするために、小学校で「合い言葉」、中学校では「チームの目標」と、2～3ヶ月毎に目標を徐々に高いものに設定している。

##### ・学び合う風土

しっかりとした生徒指導の基盤の下、分からないことは恥ずかしいことではなく価値あることであるといった指導が徹底されていることで、互いに意見を伝え合うことに抵抗なく、自由に発言し学び合う風土が醸成されている。このことが、多くの挙手や交流活動の際に自分の意見を伝える姿につながっている。

### 今後の取組

#### 【教務担当主幹教諭として】

- ・ 共通理解、共通行動すべき事項を職員室に『見える化』して示す。取組期間後には、成果を掲示し、意欲の向上につなげていく。

#### 【校内研修担当者として】

- ・ 校内研修で実践された授業の指導案を毎年データ化して蓄積し、全員で共通して使えるようにしていく。
- ・ 研修のための研修でなく、目的を明確にして、全教員で共通理解を図った上で進めていく。
- ・ 自校の課題を管理職と共に共有し、それが研修に反映されるようにする。
- ・ 授業スタンダードに基づいた授業が行えているかを毎月確認することで、PDCAサイクルを機能させるとともに、それを学校全体で数値化し共通理解することで授業に対する意識の向上につなげる。

#### 【学力向上コーディネーターとして】

- ・ 教科担当者の実態や課題を分析し、学年間の授業方法・内容を確認・系統化が図られるように研修を仕組み、統一した取り組みを行う。

### 今後の取組

#### 【教務担当主幹教諭として】

- ・ 校内環境でも仲間づくりの『見える化』を行い、児童生徒の意識を高めていく。

#### 【校内研修担当者として】

- ・ 授業づくりの基盤は集団づくりにあることを教師間で十分に共通理解を図ったうえで、生徒指導を兼ねた授業の目標づくりを設定する。
- ・ 主題研修のテーマだけでなく、他教科を含めた学び合う集団づくりのための手立てを提案していく。
- ・ 一単位時間全体ではなく、段階をしぼった研修の柱とする。

#### 【学力向上コーディネーターとして】

- ・ 学力向上に関わる情報や資料を、本校の実態との関連を明らかにして提供することで、学力向上への意欲・関心を高めていく。

#### 【学級担任として】

- ・ 導入段階で児童・生徒に課題意識をもたせ、それが学習意欲へとつながるように意識していく。

### まとめ

- 学力向上を実現させるためには、まず、個々の教員の指導力の向上を図ることが必要不可欠である。
- 若年層が増える今、個人任せにするのではなく、学校全体として、組織的に取組を進めていくことで質の向上を図る必要がある。